

令和3年度 第1回下呂市総合教育会議 議事録

1. 開催日 令和3年6月25日(金) 開会 午後2時30分 閉会 午後3時30分

2. 開催場所 星雲会館2階 西風の間

3. 出席者

(1)構成員

市長 山内 登
教育長 細田 芳充
教育委員 河尻 明子
教育委員 富永 京子
教育委員 小口 晃生
教育委員 細江 洋一郎
教育委員 三木 朋哉

(2)市職員 【市長公室事務局】

市長公室長	野村 穰
市長公室企画課長	山本 大誉
市長公室企画課主査	富士井 美佳
市長公室企画課主査	中島 大樹
市長公室企画課主事	奥村 和
【教育委員会事務局】	
教育委員会事務局長	吉田 修
教育委員会学校教育課長	北條 裕也
教育委員会教育総務課長	田添 誠

4. 傍聴人 0人

5. 議事の要旨 別紙のとおり

○山本企画課長

9時半の開始ではございますけども、全員お揃いということでございますので、始めさせていただきます。本日、大変お忙しいところをお集まりいただきまして誠にありがとうございます。この会議のあと、引き続き教育委員会があると伺っておりますので、それまでよろしく願います。本日の出席者のご紹介につきましては、お配りいたしました次第の裏側の名簿でご紹介に代えさせていただきますので、どうぞよろしく願います。

それでは、本日の、本年度第一回の下呂市総合教育会議を開催させていただきます。本日は次第にありますとおり、議題は1、2とございますけども、いずれも次期の下呂市の教育大綱の策定に向けた意見交換を目的としたものとさせていただきます。また、会議は公開が原則となっております。事務局において本会議の議事録を作成し、後日、ホームページで公開することになりますので、ご理解をお願いします。それでは、まず初めに市長からご挨拶を申し上げます。よろしく願います。

○山内市長あいさつ

こんにちは。市長の山内でございます。今回は大変お忙しい中、総合教育会議ということでお集まりいただきましてありがとうございます。教育委員会の皆様方には、平素、学校教育等多方面に亘り、ご意見を賜りましてありがとうございます。

下呂市内でも、コロナの問題で、学校の授業ですとか色々なところに影響が出てます。子どもたちも、なかなか従来どおりの活動ができないということで、非常に色々な悩みを抱えている子が今後益々出てくるのではないかと我々も心配しております。子どもにとってどれだけストレス発散の場所を我々が提供できるか、まさしく成長過程の子ども達でございますので、その辺りも行政としてはしっかりと取り組んでいかなくてはいけないと考えております。

私は、警察出身でございますので、最近の犯罪を見ていますと、凶悪犯罪の発生がちょっと多いと思っています。事件の内容を見ましても、ストレスが起因したような家庭内での犯罪ですとか、殺人事件が最近では目立ちます。殺人があると、だいたい世の中の動きが見えてくると言いますが、大人が抱えるストレス、また、19歳以下の少年も色々な形でストレスを抱えて犯罪に巻き込まれてしまう、起こしてしまう、という傾向があります。

また、ワクチンの12歳以上の方の接種について、下呂市も文科省ですとか色々な方針に沿って実施を検討しています。学校では集団接種はしませんが、一般的な接種としては12歳以上ということで、本人のご希望、ご家族の同意、保護者の同伴、そしてお互いに誹謗中傷をしないということもしっかり呼びかけながら、ワクチン接種を進めていきたいと考えております。

さて、総合教育会議ということになりますと、今までとやり方も少し変わってきたということもお伺いしております。子どもを中心に、学校、地域、家庭、この3つが一緒にならないといけない。子どもを取り巻く色々な問題もあろうかと思っておりますので、ぜひとも皆様方が

ら、色々なお話をお伺いして、我々としてもそれを市政にも反映していきたいというふうに考えておりますので、今日はひとつお時間の許す限り、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、最初のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○山本企画課長

ありがとうございました。それでは次に教育長からもひと言ご挨拶がございますので、よろしく願いいたします。

○細田教育長あいさつ

こんにちは。今日はよろしくお願いいたします。現在の教育大綱は令和元年度から3年度末までの期限でありますので、次期の教育大綱を策定していく必要があります。本年度中に皆様と総合教育会議でご意見をいただきながら策定ということになっておりますが、本日はその第一歩ということになろうかなと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

○山本企画課長

ありがとうございました。それでは早速ではございますけども、議題に入らせていただきたいと思っております。本日の議題は、1つ目として、「次期教育大綱の策定方針及び策定の進め方について」、事務局の方で作成した案をまず私の方で説明申し上げます。その後、2つ目として、「教育大綱の振り返りと次期教育大綱に望むこと」というところで皆様方からご意見を頂戴したいと考えております。

今回、次期大綱の策定に向けた意見交換会ということで進めさせていただきます。ご意見を頂くにあたりましては、次期大綱策定に向けたご意見ですとか、あるいは直接でなくても、次期の大綱に繋がるようなご意見を頂戴できればと思っておりますので、どうぞご協力の程よろしくお願いいたします。

それでは早速ですけども、資料の説明をさせていただきます。お手元の資料1の1ページをご覧ください。まず、現行の教育大綱の位置付けでございますけども、下呂市の教育大綱は、下呂市の教育及び文化、スポーツの振興に関する総合的な施策について、市長が総合教育会議において協議し、その理念や基本方針について定めたもの、という位置付けとしてございます。参考までに法律上の根拠となる条文を載せてございますので、ご参照いただければと思っております。

計画期間につきましては、市長の任期が4年ということでございまして、4年間のうちに一度は改定ができるということを見込んで3ヶ年ということになっております。現在の大綱は令和元年度から令和3年度末までということになっておりますので、新たな令和4年度から令和6年度までの大綱を今年度末までに策定するということになります。

2ページをご覧ください。他の自治体の策定状況をご参考までに載せてございます。全国

的に約6割強の自治体が大綱を策定しているということで、法律上では「大綱を定めることとする」となっておりますが、現実的には6割強という自治体が大綱を策定している一方で、約3割の自治体につきましては、教育振興基本計画、これも法律に基づいて策定するものですが、そういったもので大綱に代えているというのが現状でございます。

3つ目の現大綱の概要というところでございますけれども、こちらにつきましては、現在、下呂市が別途策定しております「下呂市第二次総合計画」という計画がございます。これは、下呂市が市政を行う上で最上位となる重要な計画でございます。その中の基本目標2に「はぐくみ」という分野が設けてございます。その「はぐくみ」がいわゆる教育に関わる分野と捉えてございまして、現大綱は、「はぐくみ」を基調として構成されているということでございます。

参考までに現大綱を6ページに付けてございますので、ご覧いただければと思います。現大綱の中身といたしましては、例えば、基本理念といたしまして、「生きる力や豊かな文化を育みます」と書いてございます。これが下呂市第二次総合計画の「はぐくみ」の理念でもございまして、それと一致させている状況でございます。そして、その下に1、2、3、4、5と基本方針がございますけれども、そういったものも総合計画の考え方を基調にして策定している状況でございます。更に、それぞれ施策の目標が書いてございます。ざっと見ていただくと分かるかと思いますが、例えば大きいところの基本方針2の真ん中に、「地震や豪雨への諸対応」という表現がございますけれども、こういった施設の安全性の再点検や老朽化対策ということで、学習環境の整備ということでもありますとか、あるいは、3番の方を見ていただきますと、上から2つ目、3つ目に生涯学習という言葉ですとか、子ども会、地域活動のリーダーの養成等ということで、社会教育分野のことも書いてございます。

また、4番を見ていただきますと、「ふるさとの自然や文化を受け継ぎ守ります」ということで、埋蔵文化財体験学習、文化財講座、あるいは、ふるさとの自然学習といった内容になってございます。5番につきましては、社会体育と申しますか、スポーツ関連のことがまとめであるということでありまして、伝統文化、自然学習、社会体育など非常に多岐に亘った現在の教育大綱ということでございます。

続きまして、3ページをご覧ください。3ページの左側に、丸がたくさん書いてある図がございます。この図が、先程申しました下呂市第二次総合計画の、全体の理念と構成を表す図でございます。その中で先程申し上げました「はぐくみ」という分野が、「生きる力や豊かな文化を育みます」と書いてございますが、これが先程の現教育大綱の理念と一致しているものでございます。そして、右側でございますが、ここが、今回事務局案として作成させていただいたものです。まだ骨子案でございまして、この中身を肉付けする作業を、これから皆様方のご意見を伺いながら進めていきたいと考えているところでございます。簡単に申し上げますと、まず基本理念は現大綱と同じで、下呂市第二次総合計画に基づいたものとして踏襲していければと考えてございます。

そして3つ目の基本方針というところでございます。今回は、より下呂市第二次総合計画

とリンクといたしますか、関連付けが明確になるように、総合計画の学校教育という項目ですとか、社会教育、あるいは文化芸術、歴史、文化財、スポーツ、そういった総合計画上に挙がっている項目を、はっきりと分かるようにしたいと考えております。そして、それに従って、それぞれの目的に基づいた具体的な取り組みを下に書くというものにしたらどうかと考えてございます。

今回の骨子案で現大綱と違うところでございますけども、真ん中の目指す姿というところでございます。先程ご覧いただいた6ページの教育大綱で基本理念の文章のところを読みますと、「先を見通すことが難しく、今の子どもたちが活躍する近い将来の社会では、今とは全く異なる社会になるとの予測もあり、その時代に生きる力を今、養うことが急務とされています。そうした変化を受けとめながら、ふるさとで暮らす大人たちが、いきいきと輝く姿を創出するとともに、ふるさとを誇りに思い、次の世代へとつなげることのできる子どもを育てます。」ということで、子どもと大人という関係で現大綱が表現されています。先程、市長から話がありましたが、学校、地域、家庭と、一言で大人という括りで捉えるのではなく、よりそれぞれの分野がどう責任と役割を自覚してやっていくのかということ意識しながら、教育行政を進めているという状況でございますので、そこを明確に示したいという思いがございまして、「目指す姿」というところで、学校、地域、家庭がそれぞれ子どもたちに対して何ができるか、何が責任として課せられているのか、ということ意識した文章を考えまして、それを子どもたちにどう伝え、子どもたちのどういう姿を目指していくのかというような言葉を明確に大綱に謳ったらどうかと考えているところでございます。この真ん中の四角のところが前回と違ってございまして、今回、我々事務局としましては、前回との違いとして作成したところでございます。

スケジュールでございますが、5ページをご覧ください。今後の日程を簡単なスケジュールに示したものでございます。今回の第1回総合教育会議では、策定方針や進め方を説明させていただいた上で、現大綱の振り返りや次回大綱に望むことを意見交換させていただければと考えております。そして、次回は10月末頃を目途に、本日皆様からいただいたご意見をとりまとめまして、先程見て頂いた骨子案にもう少し肉付けをする形で素案を事務局で作成し、お示しさせていただければと考えております。そこで更にご意見を頂いて、修正案をお示した後、最終的に12月末から1月末ぐらいに最後の総合教育会議を開催し、最終確認や意見交換を行うといった流れで進めさせて頂ければと考えてございます。

私からの説明は以上でございます。このあと、委員の皆様方にお配りさせていただいた現在の大綱の振り返りや、それに基づいたご意見を伺うことにしたいと考えておりますので、まずは進め方や、こういう構成にしてみてもどうかという骨子案に対しまして、何かご意見を頂戴できればと思いますがいかがでしょうか。教育委員の先生方、どのようなことでも結構ですので、ご意見がございましたら、よろしく申し上げます。

○細江委員

令和元年から令和3年の3年間で、毎年、教育大綱の振り返りとか、施策の進捗状況の把握というものを私はあまり記憶していないので、毎年これは行われていたのかなという疑問がありますが、施策に関しては、しっかりした施策でいいのかなと思います。施策展開ということに関して、やはりPDCAは繰り返し、繰り返しで、反省をしながら次の新しい施策は展開されていくという形ですので、やはり毎年反省をしなければならない。現状把握をして、修正しながら目標を達成していくということが多分されていると思うのだけど、ちょっと私の中ではそのところが認識できていませんが、いかがでしょうか。

○山本企画課長

まさに先生がおっしゃるとおりでございまして、実は3年前に策定した後に、個々の施策の展開ですとか進捗管理というものが、正直に申し上げて、しっかりとしたものがない状態では言い難い状況がございました。それで、昨年度になって、新教育大綱を策定するにあたって、とりあえず現在の教育大綱策定以降の取り組みはどうであったのかというところをしっかりと確認しないといけないということで、昨年度末に関連を持つ課に照会をかけて取り組みに関する取りまとめをいたしまして、今回、3年間の振り返りということで、目標の達成状況ですとか、そういうものを確認したというのが実態でございまして。ちょっと恥ずかしいところではありますが、実態はそういうところでございまして。先生がおっしゃったとおり、毎年度振り返りということは大変重要だと思っております。そこで、先程申し上げました下呂市第二次総合計画でありますとか、あるいは昨年度末に策定いたしました下呂市第2期総合戦略に関しましては、PDCAサイクルに基づいて毎年度振り返りを行っております。教育大綱は、そういった仕組みがございませんので、今後の振り返りにつきましては先生ご指摘のとおり実施していく必要があるのではないかと考えております。

○三木委員

子どもを中心として、学校、地域、家庭が三位一体となって、子どもを含むと四位一体となって、ということになると思いますが、個人的な印象として、一番直接で、尚且つ難しいのは家庭でないかなというふうに感じます。学校と子どもは、毎日先生と一緒にいて、地域も元来の素地がある中でコミュニティスクールというような方向性が出てきている。一方で、家庭と子どもというのは本来非常にプライベートなところだと思いますので、この関係が、施策としてどのように踏み込んでいけるか、そして、そのことをどのように公開し、正しく受け取ってもらえるかということが非常に厄介でないかなということをお家のことも念頭に置きながら思っております。

現大綱の振り返りを見て、もちろん家庭に関わる項目が既にある訳ですけども、このコロナの時代になって、より一層家庭と子どもというところの繋がり、そこで教育というふうに表示されるような内容が、子どもに対してというよりも大人にどう伝えるのかが非常に重

要かつ困難ではないかなという印象を抱きます。これは蛇足ですけども、私はこういう立場ですので、そこはやはり宗教の力が大きいかなと思います。その辺りの方向性や具体的な施策が一番厄介かなと思いますが、皆さんはどのようにお考えでしょうか。

○山本企画課長

ありがとうございます。教育委員会、市長部局サイドでも、やはり学校ですとか、こども園に対する役割、地域の役割、そういったところはしっかり進めているところですよ。例えば、学校では、授業、それから行事の中で子供にしっかり力を付けていただく。地域では、地域が持っている人材ですとか、子ども会といった取り組み等の行事ですとか、そういったものの中で、まさしく子どもに力を付けていくということを行っています。子どもに力を付けるというのは、今回の理念が「生きる力を」というような言い方をしているものですから、先程言った時代も変化していつている中で、子ども達はそういった時代の変化を見る、その中で生きる力を身に付けるための場と、そうした意味で学校や地域といった場を考えているということです。

おっしゃるとおり家庭というものは、非常に難しいものがあると思っております、私も教育に関して専門的な知見があるものではございませんが、一義的には家庭生活そのもので、例えばお手伝いであったり、そういったことを含めて、子どもたちに関わりを持ってもらうように、家庭の方も自分たちの子どもを教育していく一つの主体だと意識してもらうことが大切ではないかなと思っております。

教育大綱は当然公表していくものでございます。とにかく学校だけが教育の場ではないというところで、家庭の方にもなんとか自覚を持っていただくような公表の仕方を考えていきたいと思っております。

○細田教育長

企画課長が言われたように、三木委員が心配される施策というような文言で考えていくと非常に難しい部分が出てくると思うんですけども、やはり人づくりの根本をなす家庭、地域、学校の中で、家庭の役割はもちろんあります。衣食住から始まり、安心した生活の土台となる部分を担っていただくという重要な役割を今一度、意識化というか自覚していただけるような投げ掛けを教育大綱に記していきたい。プライベートな部分もあり、難しいかもしれませんが、そういった各々の役割をここで明記することで、自覚化に繋げるという意味でも大綱の役割は大きいと思っております。

○三木委員

2ページの図は、一方的な矢印で家庭から子どもに向かっているのではなく、相互に矢印があるということで、これは、親が規範となって子どもを教育することもあると思うのですが、子どもの姿から我々も教えられるということは当然あって然るべきだと思いますし、一

方が教える側、教えられる側ということではなく、相互に大人と子どもという立場を超えた教育というものがここでは目指されていると思うので、その辺りを言葉で、子どもを持つ親に伝えられるような表現にできればよりいいかなというふうに感じました。

○小口委員

2ページの図ですけれども、家庭については三木委員と全く同じですが、例えば学校と地域ということで、今のコミュニティスクールを考えると繋がると思いますが、下呂市の場合、コミュニティスクールが始まる前、学校に地域の方が行って地域学習をするといった取り組みはかなり行われています。だから、コミュニティスクールになっても、案外スムーズに入ったのではないかなということだと思います。ただ、例えば、今ケーブルテレビで放送している米作りの様子を見ると、平日に地域の方と学校がやっている。地域によっては、学校は入らないで休みの日に子どもを集めてやっている地域もありますけれども、そういうのを見ていると、地域と子どもはいるけれど、家庭の人たちは仕事があるのでなかなか入っていけない。だからそれぞれ別個のものになってしまう気がするので、子どもたちを集めて田植えや稲刈りをする時に、お父さんお母さんが一緒に来て、その姿を見ているような形にならないかなといつも感じています。そうしたことから考えると、この図は、「子どもと学校」、「子どもと地域」、「子どもと家庭」を相互に矢印で結んでいますが、学校と地域と家庭は囲むだけでいいのか。それぞれがお互いを刺激しあったり、学びあったりすることも、きっとあると思うので、そのことも考えていく必要があると思います。例えば、学校と地域はコミュニティスクールの活動があります。学校と家庭は、PTA活動もあるでしょうし、学校からの色々な連絡などの繋がりもあります。でも、地域と家庭はありそうではっきりしていないという気がします。そう考えれば、この大綱の実施、実現についての一つの見る窓ができる気がします。具体的に目指す姿を出したときに、何から見ていけばいいのかということで評価がしやすいような気がするので、そういうものを考えていく意味があると思いますがどうでしょうか。

○細田教育長

とても貴重なご意見だなと思います。周りもお互いの関連性を持っていくことを大事にしなければいけないということや、地域がやってくれるからといってお任せで学校も家庭も見ていだけではいけない。だから、それが次期の教育大綱の中に下呂市の人づくりとして、皆でやっていこうという思いを入れたいという趣旨ですね。とても素敵な、大切なところだと思います。いいお話を聞かせていただきました。

○細江委員

私は社会教育を10年以上やっていますが、この図はいつも使われています。社会教育では当たり前です。地域ぐるみの子育て活動ということで、コミュニティスクールに関わって

いくんですけど、この図に関してはもうマニュアルみたいなもので見慣れていますので、この図がどうのこうのという話では多分ないと思います。地域で子育てする重要性をこの大綱で謳っていただければいいのではないかと思います。

○野村市長公室長

子どもの教育という点もございますけれども、こうした活動を通じて学校、地域、家庭のそれぞれ育っていくことができ、より良い方向に行ければと思っておりますので、その辺の観点も含めて頂ければ。

○山本企画課長

頂いたご意見でいえば、例えば、目指す姿のところに、子ども、学校、地域、家庭がばらばらに子どもに関わるのではなくて、「相互に連携して」という言葉など、要するに「それぞれが、それぞれの役割をただ果たしていればいいのではない」というところが素案の方に盛り込んでいければと思います。貴重なご意見ありがとうございました。富永先生どうぞ。

○富永委員

私も皆さんの話を伺っていると、子育てが先に進んでいるということはないということですね。子育て最中の方は、子育てしていつて段々行くので、今、学校とかこども園に子どもがいる人たちは、その何年間しかないってことですね。だから、細江さんが言われたように3ページの図はいつも同じということで、これを目指してやればいいと思います。でも、「であらねばならない」という言葉があると思いますが、「こうしなきゃいけない」と思うと苦しくなるので、やはり、もっと柔軟的に考えなくてはいけません。建設的で、前を向いたものではあるけども、今の状況を考えると、どんなことがあっても大人が柔軟に動いていかなくてはいけません。そういう意味では、ここに出していただいた案で、目指す姿として、子ども、学校、地域、家庭と分けていただいて、直接こうなんだとはっきり示したということは分かりやすいような気がしました。今までずっとやってきて、言葉で説明してきましたけども、図ではっきり示していただいた方が分かりやすいと思って、この案は今までになくいい案かなと思いました。何をどのようにするかということはやはり柔軟に必要あります。ここ数年、本当に何が起こるか分からない。災害もそうだし、コロナもそう。そうしたことに対応できるようなものでないといけないと思いました。

○河尻委員

私も3ページに示されている目指す姿で、子どもとか地域とか、それぞれ4つに分けていただいておりますが、この4つに分けるというのは、令和3年度までの現大綱の基本方針よりも具体的な表現に変わっていくと思うので、見る側としてはより具体的なところまで理解が進むような気がします。ただ、個性を尊重してとか、それぞれの思いとかを尊重してとか、

「個」を大事にするようなことが、子どももそうですし、大人もすごく最近増えてきていると思います。それぞれ個人の考えを尊重するような方向に向かっていると思いますが、家庭でそれを表現しようと思うと、他の3つに比べて、「よそはよそ、うちのうち」という考え方が一番出やすいところではないかと思います。子どもが、「友達も持っているからあれを買って」と言うと、「うちを買わないよ」と言うことがあると思います。「よそはよそ、うちのうち」と、親さんたちもよく使う言葉だと思いますが、そういうことが文章を見ても、それがすんなり入るご家庭と、こういう計画は作り物で、目指す目標にはなっているかもしれないけど、うちのうちだよというような捉え方をされることも多いと思うので、文章の表現に気を付けて考えていただけたらと思います。

○山本企画課長

ありがとうございます。難しいところではあると思いますが、その辺りは頂いたご意見を踏まえて考えたいと思います。ありがとうございます。

時代の流れもあり、個を大切にするという考え方を持ってみえるご家庭も多いので、そういった家庭にも響くような表現というか、伝え方を考えてはどうかというご趣旨でよろしいでしょうか。

○河尻委員

学校で個を大切にするという言い方をすると、割とすんなり聞いた側も理解できると思います。子どもはそれぞれ個性があるから大事にして伸ばしていこうというような、すごく理解しやすいと思いますが、それが家庭になった時には、うちの家庭は関係ないかなって思われる可能性がすごく多い気がします。

○山本企画課長

ご趣旨はよくわかります。ありがとうございます。

○小口委員

まったく別のことになりますが、大綱は広報紙、ホームページでの公開って書いてありますが、本当にこれで分かってもらえるとお考えでしょうか。少なくとも僕は、教育大綱があるということ、市民の皆さんがどれだけ知っているのかということ、例えば、学校とか、学校に来る人とか、そういう機会がある人はいいいですが、一般の人は広報紙に出しても見ないような気がします。市民の皆さんに理解していただくことも大事ですし、もっと言えば家庭にもっと理解してもらいたいのので、周知の方法をもっと他に考えられないかということもいつも思います。

申し訳ないですが、僕は市の広報紙が届いても、さっと読んで終わるので、広報紙やホームページよりは、「まめなかな」を見た方が入ってくるような気がします。広報紙、ホーム

ページでの公開ということは、市の立場としてはわかるのですが、本当にこれで皆さんに分かっていただけるのかなという心配を僕は持ちました。

○山本企画課長

ありがとうございます。広報の方法というのは色々あるかと思いますが、考えられる限り大綱の情報発信の在り方というのは考えていきたいと思います。

○小口委員

特にコロナ禍でなかなかできないですけども、コロナの前には地域でふるさとまつりのような行事をやったときに、市民活動推進課の方たちが来て、子どもと一緒に活動したりする姿を見ていいなと思いました。だからあのような地域行事の場でも周知していくことはできるのではないかなと思ったので発言しました。

○山本企画課長

ありがとうございました。

○野村市長公室長

ジュニアリーダーの活動ですね。

○小口委員

そうですね。

○野村市長公室長

ありがとうございます。

○山本企画課長

皆さんのご意見を伺っておりますと、ひとまずこの方針に関しましては、異論はなかったかなというように思います。頂いた貴重なご意見を反映させながら、素案の方を作っていくと考えています。

具体的な流れについては、このあと議題2で頂戴できればと考えております。ひとまずこの3ページの骨子案につきましては、この方向性で進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

出席者

(異議なし)

○山本課長

ありがとうございます。市長よろしいですか。

○山内市長

結構です。

○山本企画課長

ありがとうございます。そうしましたら、2つ目の議題、策定に向けたご意見をお伺いします。お手元の資料2でございます。個々については、個表が後ろについてございますが、この取り組み一つ一つを紹介するということは、時間の関係上差し控えさせていただきたいと思っておりますが、簡単にこの取り組みの振り返り結果を一枚で表にまとめてございますので、簡単ですけどもお話させていただきます。この表のA、B、Cとございますけれども、これが市の各課で自分たちの取り組みの検証を行い、検証の結果を自己評価いたしました。ここに書いてありますとおり、「Aはとても順調に進んでいる」、「Bは概ね順調に進んでいる」、「Cは改善が必要である」というような判定をした結果を施策ごとに数でまとめたものでございます。

基本方針1は、「魅力ある学校づくりを推進し、未来へたくましく生きる子を育てます」ということで、これに対するC評価は0%で、全体的には高い評価を示しているということでございます。継続的にやっている取組に加えまして、生徒会運営の発信や、ギガスクール構想の推進、こういったことに取り組みまして、コロナ禍にあっても学校生活の充実とか未来をたくましく生きていく力を育む取り組みが行われたといった振り返り結果を掲載してございます。

それから基本方針2は、「安心・安全を最優先とし、地域とともにある学校づくりを目指します」というところでございます。AとBが全体の8割を占めておりまして、校舎の長寿命化ですとか、継続的な施設の維持管理、あるいは校門付近への防犯カメラの設置などによって学校生活の安全に繋がる取り組みが展開されているというところでございます。

それから基本方針3の「市民誰もが参加しやすい生涯学習の体制づくりを推進します」という方針でございますが、こちらにつきましてはAが0%ということにはなってございますが、Bが全体の8割というところでございます。こちらにつきましては、コロナの影響がございまして、中止や規模縮小した取り組みが生涯学習の中ではあったということでございまして、そういった取り組みでBが多い状況に繋がっているのかなと思っております。特に「いのちのふれあい講座」に対する市民アンケートの結果によりますと、生徒、教職員の満足度が90%以上と高い結果も出てございます。

次に、基本方針4「ふるさとの自然や文化を受け継ぎ、守ります」という方針でございますが、これはAとBが約7割というところでございます。やはり子どもたちに郷土を学ぶ機会を提供するというところでございまして、コロナ禍ではございますけれども、郷土の文化財や文

化の取り組みについて、遺跡の復元イラストの作成でありますとか、伝統文化、子ども教室の開催、こういった文化財の継承に取り組んだということでございます。

最後の基本方針5のスポーツに関してですが、C評価が全体の57%を占めてございます。これはコロナ禍ということでスポーツにつきましては、参加者が減少したり、中止や縮小されるといった事情がございまして、コロナがもろに影響しているものと考えております。

個表につきましては、事前にお渡ししてございますので、こういった内容をご覧になって、あくまでもきっかけといいますか、新しい取り組みに向けて、ご意見をいただくひとつのきっかけとしていただくためにお配りした資料になりますけれども、新しい大綱の策定に向けて、考え方ですとか、あるいは現行の大綱を改めてご覧いただいて、ここは踏襲して続けていくべきといったご意見でも結構です、皆様のご意見を頂戴いただければと思いますがいかがでしょうか。

○三木委員

基本理念に関係することですけれども、基本方針1の「たくましく」ということを、先程、富永委員が言われた、「こうせねばならん」ということでない柔軟さが、より求められる中で、この「たくましく」ということは、今、学校にエアコンがついたり、コロナ対策で設備がそれなりに設置されたり、あと、ギガスクール構想でスクリーンだとか、タブレットが設置され、子どもがより学習に集中できる環境に整いつつあり、トイレも洋式化になり、これまでにないような環境ではないかなとも思う一方で、教育長さんが以前言われたような覚えがあるのですが、環境を整えすぎた時に失うものではないかなと思います。変な話ですけども、家のトイレは用を足した後にボタンを押さなくても自動で流れますが、学校では自動で流れない。まして、外の和式トイレで用が足せない。大人でもそうですけども、何か障害が生じたときに、普段依存していることが通用しないということが「何が起こるか分からない」ということだと思います。僕はデジタルも好きですが、デジタルを活用しながらも、尚且つ今までのアナログを併用していくような力でなければ、結局、デジタル社会だと言いつつも、生きていくのは生身の人間なので、そのことを重々学校場で気を付けてみえることだとは思いますが、そのような「たくましさ」でなければいけないのかなと思いました。

未来というより、今この瞬間です。昨年のような災害が起こった時に、恐れ慄くけれども、「でも大丈夫」というような生き方を大人は子どもにどう伝えていけるのか、何かそのことを考えたときに、非常にこじつけのような話ですけども、幸いこの辺りは自然が非常に豊かで、触れることができる環境が多々あって、森林の活動に参加したり、デジタルの活用だけではない訳です。そうした直に体験できるような環境にあるので、そのような身を以て体験できるようなことを活用して、未来と今をたくましく生きる、ということをより強調出来たらということをお個人的には思います。

そして、もう一点、これは別件ですけども、コロナがいつから大丈夫なのかは分かりませ

んが、私のお寺で行事をやるときに、やはり恐る恐るですけど開いたら大勢の年配の方が集り、「久しぶりに会えて本当に良かった」、「集まれて本当に良かった」、と言われた方がほとんどでした。おそらく高齢者向けのイベント企画は、足踏み状態にあると思います。ワクチン接種が普及し始めて、それが加速的に進んでも元のように戻るかは分かりませんが、行事を開いたときに、もしかすると今まで以上に「集まりたい」という気持ちが出てくるのではないかなと思います。いやらしい言い方ですが、それを上手に利用して、尚且つ、このコロナと生きる時代にあって、地域の方、高齢の方も集まることの重要性、そこで何をやるか、そのことはすごくいいチャンスなのでないかなと個人的には思います。以上です。

○山本企画課長

ありがとうございました。教育長、何かご意見はございますでしょうか。

○細田教育長

いっぱい言いたいことはありますが、教育委員さんにたくさんご意見を聞いていただきたい。

○富永委員

本当にこれは個人的な考えなので、この教育大綱にどのように結びついていくか分かりませんが、先程、三木委員が言ったように、「生きる力」とか、「たくましく」ということと、個々を大事にするということとを並行していくことはすごく難しいことだと思います。私の仕事は障害を持っている方を支援する仕事ですけども、特別支援学校はとても細かな指導ができていところで、本当に個々を大事にしています。ただし、言葉に語弊があったら申し訳ないですが、大事にしすぎて、社会に出たときに「個」はいいけど、団体の中で生きていきにくくなってきます。進路指導の立場として言うと、下呂市は選ぶところが少ないので、やはり一人ひとり大事にして、先生とマンツーマンで何年もやっていきます。すると、特別支援学校を卒業し、社会に出たときに、大勢の中でやっていけなくなる。やはり、個を大事にするということと、社会に出てたくましく生きるというところのバランスはすごく大事かなと思います。ちょっと足りないぐらいだと工夫をするようになるので、ここ数年の災害やコロナ禍を過ごした感覚として、マイナスの環境の中で強い力が生まれてくると感じました。完璧に環境を整えるというのは大事なことだけど、やはりそこを見据えていく必要があると思います。

○山本企画課長

ありがとうございます。

○細江委員

この施策の検証結果の報告を聞いてどう思うかということで、2点ほど気になる場所があります。前に教育委員会でも話をしましたが、一つは、「市民誰もが参加しやすい生涯学習の体制づくりを推進します」の3つ目です。図書館機能の充実というのを謳っていますが、なかなかこれは難しいことです。私は、新図書館の計画のプロジェクトに加わっていますが、大きな図書館を建てても、じゃあ人が集まるとか、例えば、萩原に建てたとしても、小坂や金山から来るかといったら、おそらく来ないと思います。ですから、各図書館を充実させるためにはどうしたらいいか、それを市長も訴えられていたと思いますけれども、そのとおりだと思います。市にメインの図書館があって、そこにしっかりと館長さんがいて、館長さんがそれぞれの図書館を充実させ、ノウハウを蓄積させる。そういうことで、コンサルタント的な提言やアイデアを持っている方が一人下呂市にいれば、それぞれの図書館をどういう形でやっていくかということが見えるのではないかと。それには、すごく経験もいますし、コンサルタントを雇うお金もいることだと思いますけど、それぞれの図書館を充実させるためには、かなり時間をかけてじっくり練る必要があると思います。図書館司書の方は、一生懸命やっていますが、手一杯の状況で、市の職員の方も今までずいぶん一生懸命図書館に関わっていただきましたが、こうした現状である訳なので、それをもう少し充実させようと思ったら、新たな試みに取り組む必要があります。色々ありますが、ハード面では、例えば図書館の中に、ミニシアターやミニコンサートができる憩いの場、講演会ができるような小会議室などを設置したり、ソフト面では色々なメディアを使うなど、ハードとソフトの両面から図書館の機能を充実させていく必要がある。そのためには、なかなか難しいが、かなり綿密な計画が必要。

それから、もう一つは、交流会館の使用について、頑張ってみえるが使用率がかなり低く、市民へのアピールが少ない。クラシックコンサートをやるのもいいし、演歌歌手のコンサートをやるのもいいですけど、じゃあみんな行くかと言ったら、あまり行かないです。好きな人は行きますけど。交流会館のコンサルタント業務というか、相談に乗ってくれる方を外部から呼んでくるか、そういう方を雇うか、そうでもしないとなかなかこういう社会教育施設を活性化するのは難しいと思います。交流会館の中の泉ホールもそうですし、体育館の方もちょっとやり方を変えていかないとうまく活用できていかない。今の状態だとちょっと頭打ちの状態ですね。それをこの教育大綱の施策として、ぜひ謳っていけばいいと思います。長々と申し訳ないです。

○山本企画課長

ありがとうございます。その他、ご意見ございますでしょうか。

○小口委員

評価結果を見させていただいて、これは市として行っていることなので仕方ないなと思

いながらも、評価は「こういう活動ができた」、「こういう取り組みができた」、「こういう行事をした」ということで評価がされています。例えば、基本方針4の「ふるさとの自然や文化を受け継ぎ、守り伝えます」で見たときに、「学校へ行って地域学習をやった」となっている。やったので“○”ですが、とすれば、案外、地域の行事が活発だろうと思っているが、この間の青少年育成会議の「少年の主張」の中で、「地域行事になかなか参加できない」というような話をしていました。それを聞いてなにか寂しいなと感じ、市の立場としては、「こういうことができた」というのはよく分かるのだけども、もうちょっと何か踏み込んだ反省ができるようなことを考えていただければ、子どもを育てることに繋がるのではないかなと思います。この評価結果を見てそんなことを感じました。

○野村市長公室長

やったことよりも、その先に何が実ったか、何が収穫できたかということですね。

○小口委員

子どもがどう思ったかということですね。どういう思いを持つ子が増えたか、ということは、心の中なので把握は難しいと思いますが、ある程度掴めるといいかなと思います。

○山本企画課長

先ほどご意見いただきました、P D C Aサイクルの考え方にも通ずる話かと思いたいの、ご意見を伺いまして、どういった振り返りの仕方ができるのかということを検討したいと思います。ありがとうございました。

お時間もあまりないようですが、教育長、何かございましたら。

○細田教育長

個人的な意見というか、ぜひ市長に聞いていただいて、教育大綱に入れてほしい考え方があります。下呂市になって歴代の教育長が何人かいらっしゃいますけども、初代の教育長から言い継がれている言葉があります。その教育観みたいなものをぜひどこかに少しでいいので、色合いを入れていただけるといいかなと思います。教育委員さん方も過去に聞かれたことがあると思いますが、「間違いだらけの教師が、間違いだらけの子どもを教えている」ということです。教師側にすると、「間違いだらけだからいいや」ではなくて、「間違いというのはやはり自覚しなければいけないよ」ということを自覚すれば、自ずと自己研鑽に励む、励もうとする。子どもは、「間違いを繰り返しながら成長するんだという見方をしましょう」という教育観を引き継いでいるので、そんな見方を基本理念にならないかもしれませんが入れてほしいということと、もう一点は、先日、少年の主張大会で、市長さんが挨拶の時に、「下呂市は、子どもたちの人づくりにはとても素晴らしい環境である」とお話をしてみえましたが、まったく同感です。先程、自然の話も出ましたが、自然にしる、文化にしる、歴史

にしろ、本当に教育資源的にはどこにも劣らない下呂市です。教育資源が豊富だということで、それを活かさない手はないということです。その思いというのは、この教育大綱にぜひ取り入れていただきたい、取り入れていかななくてはいけないかなと思っております。

○山本企画課長

ありがとうございました。自然環境というだけでなく、文化とか芸術とか、そういう文化資源を含めて、そういうお話でございました。ありがとうございます。

その他ご意見はございますか。

そうしましたら、ご意見も出尽くしたようでございます。貴重なご意見をいただきましたので、事務局でまた素案作成に向けて、作業を進めさせていただきます。最後に市長から総括と言いますか、まとめをいただければと思います。

○山内市長

ありがとうございました。貴重なご意見をたくさんいただきましたが、やはりなかなか難しいというのが実感です。我々が作ったものを、子どもがどのように評価しているのか、先程、委員のおっしゃった、子どもがどう思っているのかということですね。やはり、双方向の意見を聞いて反映させていく必要があるのではないかなというふうには思っております。あと、富永委員がおっしゃるように、こうやって大綱を作ってしまうと、皆が同じ方向を向きなさいというような話にしてしまうのではなくて、やはり個々もそれぞれ大事なので、個々は個々として、自由闊達に、自分の個性をしっかりと引き出せるような環境を作ってあげるのが、我々の仕事なのかなというふうに思います。日本人は、どうしても個性がなくなってしまうということをよく言われますので、個性を引き出すためには、我々が環境を作り、後はご自身で考えていただくとか、そういう話なのかなと思ったり、この基本方針1、2は学校づくりですけども、3、4、5はまた別ですね。例えば、市の中で見ても、1、2は学校づくりなので教育委員会でしっかりとした組織で、学校の先生がしっかりとおみえになって、ということでもいいですけども、3、4、5はやはり下呂市としてはちょっと弱いのかなと思います。市民活動推進課だけだと思いますが、ひとつの課で3つも4つもあるので、やはりちょっと弱いのかなと、来年、また来年以降にも、組織改編を含めて考えたいと思います。そんな中で、この辺りを僕としてはもう少し注力していきたいという思いも持っております。非常にある意味範囲も広い話になってきますが、やはり基本方針3、4、5の辺りを我々としては、市として力を入れていくべきジャンルなのかなということ、ご意見を聞いて考えさせられました。

いずれにいたしましても、大変貴重なご意見ありがとうございます。スケジュールも、本来であればもう少し前倒しで、もっと詰めたお話ができればいいのかなと思います。年3回で終わりではなく、もし本当に皆様方のご都合がつけば、ある程度作った時点で、もう一度皆様方に入っていていただいて揉んでいただくというのも、この総合教育会議の意義がより出

てくるのかなという思いもいたします。また、こちらから色々なご提案をさせていただきま
すので、協力を賜ればと思います。本日は誠にありがとうございました。